

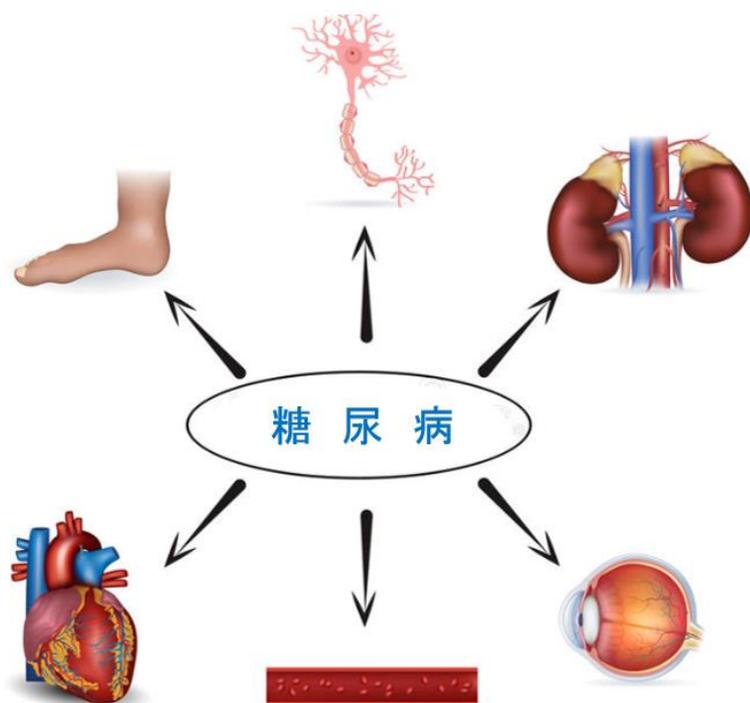
経口 GLP-1 受容体作動薬

グルカゴン様ペプチド-1 (GLP-1) 受容体作動薬セマグルチドの経口製剤を用いた国際共同第 3a 相試験 PIONEER-1 の結果が、第 78 回米国糖尿病学会学術集会で発表されました。



投与 26 週後の HbA1c は用量依存的に 0.8 ~1.5%ポイント低下し、忍容性や安全性も既存の注射剤と変わらない結果となりました。

体重の変化量は、7mg 群-2.5kg、14mg 群-4.1kg と用量依存的に拡大、プラセボ群との差は有意でありました。



体重減少 5%以上の達成率は、7mg 群 28.7%、14mg 群 44.3%で、プラセボ群に比べて有意に高率でありました。

HbA1c7%未満の達成率は7mg群
71.9%、14mg群80.3%で、プラセボ群に比
べて有意に高率でありました。

